

米

多古米王子



たこまらいふ萩原農場合同会社

代表

萩原 宏紀



Hiroki Hagiwara

全国的にも知られる幻の米「多古米」。多くの皆さんが絶賛するブランド米も誰かが作らなければ、その味は途絶えてしまいます。

多古町の豊かな土壌を生かし、伝統の味を守る。そして、新しい感性と発信力で次世代の農業を目指す若き担い手にお話を伺いました。

父の姿を見て農家を継ぎたいと意識し始めました

身近に父という良いお手本もあり、その仕事をする姿が格好いいなと思ったことが農家を継ぐきっかけになりました。小学校の卒業文集には、将来の夢は、農家を継ぐか、卓球のオリンピック選手になると書いてあるんです。小学生の頃から意識していたんだなと思います。大学への進学の時も農学科ではなく、食料環境経済学科へ行きました。当時から計画的に農家への道を考えていて、自分で販路を開拓して販売を直接したいという思いがあり、経済や経営を学べる学科への進学を決断したんです。

大学を卒業後、不動産の営業職に就いたのも、モノを売るにはまずは営業を学ばなければと考えた結果です。それが今では、自分で販売する上での良い経験になっていっています。当時の失敗も大きな糧になって、プラスになっています。営業職を経験したのも間違っただけでなかったのだなと。

一番大切なのは興味をもってもらうこと



農業のイメージを変えたい

皆さんが思っている農業ってマイナスイメージが強いんです。実際は、世間でも農業は儲からないって思われていて、そのイメージを払拭していきたいです。それには、新たな販路の開拓、加工品の開発など、生産だけではなく展開にチャレンジすることが必要です。また、これからの農業はSNSを活用して情報発信することが重要だと感じています。僕もツイッターなどのSNSを通じて注文を受けていますが、そこでのお客さんから、「お米すごくおいしかったよ」といううれしい声を聞くことができています。双方向のつながりを築くことで得られるお客さんからの直接の声が、仕事をする上でのモチベーションになっていっているんです。

きっかけは知人からの紹介だったんですが、東京都墨田区の曳舟駅前毎週土曜日に開催されている「すみだ青空市ヤツチャバ」で多古町産の米・野菜などを販売しています。最初は自分の米を売ると町のPRも兼ねていました。行っているうちに、常連さんができて、その人たちから「あの野菜も欲しい」と言われて野菜も町内で探して繰り返し持っていくうちに、商品が増えていきましたね。それと同時に、多古町では多くの野菜が作られているんだということも知る機会になりました。町のポテンシャルの高さに可能性を感じました。通い続けて5年が経ちますが、今でも続けられているのはここでのお客さんとの会話が楽しくて、趣味感覚で気負いすることなくできていくことが大きいですね。墨田区からじわじわと知名度を上げていく、そうなれば良いと思います。そして、非公認ですが「多古米王子」と名乗らせてい

ただ活動しています。これは知人が僕を「多古米王子」と呼び出したことが始まりです。面白い生産者という印象をきっかけに、皆さんに興味を持ってもらいたい、その一心です。温かく見守っていただければうれしいです。

家族の理解があるからこそ

今、自分がやりたいことをできているのは、家族の理解があるからです。感謝の気持ちを持ちつつ、これからも一緒に頑張っていきたいと思います。

今後の目標としては、雇用の創出を図り、学生が高校、大学を卒業しても地元に戻ってこられる持続可能な地域に多古町がなるようにそれを支える一人としてまい進していきます。

そのためには、これからの農業の担い手としての自覚を持ち、努力を怠らず、かつ楽しんで農業に携わっていきたくと思っています。

Prince of TAKOMAI

楽しく爽やかに情報をお届け中！
最近開設したYouTubeはこちらでチェック!!



「ちば食べる通信」創刊号の表紙に



すみだ青空市ヤツチャバでの活動



墨田区の子もたちと田植え体験ツアー